　「飢児（きじ）の食を奪い、耕夫の鋤を奪う。そこに仏の慈悲がある」これは坂木慧定（えじょう）先生のお言葉です。これを読んで、はいそうですかとすぐにうなづくことはできないでしょう。仏法は頭で理解して分かるという世界ではありません。人間の理解を超えた世界です。このお言葉を初めて聞いたのは３０代の頃で、やはりまったく分かりませんでした。せっかく仏法に足を踏み入れたのに、その仏法の世界から拒絶されたように感じショックを受けたことをおぼえています。先生のお寺へ幼い子ども三人を連れて何度か足を運びましたが、先生のお心にはついに触れることができないままお別れしました。あれから３０余年を経てこの半年間、このお言葉が何度も思い起こされました。どん底に落とされ絶望したところは仏様にたすけていただくチャンス到来なのです。機縁熟して再び先生と見（まみ）える思いがしています。時間空間を超えた大いなる世界に包まれてひとつです。仏法は身を通して入って来て下さる。自力無効の涯（はて）に。なむあみだぶつ　合掌。

**【平成30年度　法要・総会】**

**時　：平成３０年　7　月　１３　日（金）　午後１時から**

（持ってくるもの：　念珠・お経本・肩衣・）